

## 6 情報・視聴覚教育

### (1) 目標

コンピュータや情報通信ネットワークなど様々な情報手段を適切に選択し、活用することができる能力を育成し、情報活用のルールやマナーを身に付けさせる。

### (2) 今年度の重点

- ①学習効果を高めるため、視聴覚教育機器やコンピュータの操作技術や情報モラルを身に付け、児童の発達段階に応じて活用場面を判断し、その特性を生かして学習の効率化に努める。

低学年	絵をかくなどの活動を通してコンピュータの操作に親しませる。
中学年	問題解決のために必要な情報を得たり、表現したりするための道具の一つとして利用する。
高学年	得られた多くの情報から必要な情報を選択したり、適切に処理して活用したりする。

- ②機器や資料の整備・点検と適切な保管・管理を行う。

### (3) 具体的施策

- ①機器の利便性を生かした効果的な学習指導を図る。  
②機器利用に関する研修や視聴覚教育や情報教育の動向についての研修を行う。

学年	情報活用の実践力			情報化社会へ参画する態度 (情報モラル)
	情報収集・判断	情報の加工・表現	情報の伝達・交流	
低学年	必要な情報を身の回りから集めることができる。 与えられた情報の中から、必要な情報を選び出すことができる。	お絵かきソフトを使って絵を描いたり、必要に応じて文字を入れたりできる。	互いに作品を鑑賞し合い、それぞれがもつよさについて意見を出し合うことができる。	コンピュータを活用する際のルールやマナーを知り、積極的に守ることができる。
中学年	検索サイトを用いて、必要な情報を集めることができる。その中から自分の必要とする内容を選択できる。	ローマ字で入力し、ワープロソフトで簡単な文章の作成ができる。 簡単な画像の加工ができる。	ワープロソフトで文章を書き、自分の意見や考えを友達に伝えることができる。	場に応じた表現方法を考え情報を発信できる。 インターネット上には不正な情報が発信されていることもあることを知る。
高学年	自分の目的に応じて必要な資料を収集し、自分なりの資料を作成することができる。	見る側の視点に立った表現方法を工夫し、画像や文字を加工、配列することができる。	簡単なプレゼンテーションデータを作成し、受け手がはっきり分かるように表現することができる。	情報化社会の光と影への理解を深めるとともに、電子メール・掲示板等を利用する際は人権や著作権などの尊重が重要であることを理解し、適切な情報モラルを身に付ける。